医学部

徳島が好き
ー阿波の医療は任せとけ♪

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部総合診療医学分野
特任教授
谷 憲治

「夢は地域の総合医♪　阿波の医療は任せとけ♪　ヤットサー、ヤットサー」

平成22年夏、徳島大学医学生によるサークル「地域医療研究会」のメンバーは、阿波踊り連「地医輝連（ちいきれん）」を結成し、この掛け声を元気いっぱいに響かせながら藍場浜や市役所前演舞場を踊り抜けました（写真①）。本番の10ヵ月前から有名連である蜂須賀連との交渉を開始し、練習にも参加させてもらいながら準備を進めてまいりました。みんなでアイデアを出し合ったオリジナルの浴衣には徳島の地域をイメージした眉山、吉野川、鳴門の渦潮を描きました。

平成19年10月に結成された「地域医療研究会」には平成22年11月現在医学科1年生から6年生まで92名が在籍しています。徳島の地域医療に貢献しているサークルOBも出てきています。彼らは月に一度のペースで徳島県内のさまざまな医療施設を視察するなどの活動に取り組んでいますが（写真②）、将来必ずしもへき地を含めた地域の医療現場で働くということを決めている訳ではありません。ただ、地域医療に関心を持ち、医学生のうちに医療の広い世界を見ておきたいという気持ちは共通しています。彼らは、神山町のスダチ狩りを体験したり（写真③④）、牟岐の民宿に泊まって海賊焼きを味わったり（写真⑤）、といった医療以外の活動も積極的に行っています。このような活動を通して、地域医療は地方にも都市部にも存在することと、そして海部には海部に、那賀町には那賀町に根付いた地域医療があるということを少しずつ理解してきているようです。こういった医学生たちの活動は、自身の徳島県への親しみを深めるだけでなく、若いエネルギーを備えた彼らが地域に入っていくことによって地域の活性化にもつながっていくのではないかと期待しています。

徳島大学では平成20年度より医学科5年生からの臨床実習に地域医療実習が取り入れられました。彼らは徳島大学のキャンパスを出て、西部は三好市、南部は海部郡、そして中部は那賀町での泊まり込みの実習を経験しています。しかし、それでも6年間の大学生活において徳島という地域の自然や人々と触れ合う機会はまだまだ十分とは言えません。徳島大学で6年間の大学生活をおくるということ、これはきっと誰かが結び付けてくれた縁ではないでしょうか。ぜひ、地域医療サークル活動などの自主的活動を通して多くの医学生に徳島という土地に馴染みを持ってもらいたいものです。それが未来の徳島の医療を支える人材確保へつながる必要条件ではないでしょうか。

②

③

⑤

④

①